



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.870 2013年2月18日

ARIBからのお知らせ

第107回電波利用懇話会のお知らせ
「米国における周波数有効利用の動向と今後の展望について」(仮題)

米国連邦通信委員会(FCC)で長年無線施策担当者として勤務されたマイケル・マーカス博士が3月初旬に来日の予定です。

この来日の機会に、ARIBの会員に対し、最近米国において注目を集めている無線LANと他の用途との周波数共用などのテーマに関し、「米国における周波数有効利用の動向と今後の展望について」と題して、ご講演をいただくことと致しました。

講演は英語のみで、通訳はつきませんが、わかりやすくお話いただく予定です。

会員の皆様には、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時: 平成25年3月4日(月) 14時00分から15時30分まで
- 2 場所: 一般社団法人電波産業会 会議室(日土地ビル11階)
東京都千代田区霞が関1-4-1 TEL:03-5510-8592
- 3 題名: 「米国における周波数有効利用の動向と今後の展望について」(仮題)
- 4 講師: 元 米国連邦通信委員会(FCC)次長 マイケル・マーカス博士
- 5 対象: ARIB正会員及び賛助会員
- 6 参加者: 60名程度(定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 7 申込先: 当会ホームページの懇話会等開催案内よりお申込ください。
(<http://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)
- 8 参加費: 無料
- 9 その他: 英語での講演(通訳はつきません。)

問合せ先
企画国際部 芝山
TEL:03-5510-8592
FAX:03-3592-1103
e-mail:arib-seminar2012@arib.or.jp

電波環境協議会主催第36回講演会「CISPR バンコク会議報告会」を開催

ARIB が事務局を務める電波環境協議会（略称：EMCC）主催の標記講演会が、2月7日（木）に計90名の出席のもと霞が関プラザホールで開催されました。

国際無線障害特別委員会（CISPR）会議は毎年開催されています。今年度はタイのバンコクにおいて昨年11月5日から16日までの12日間にわたり開催されました。我が国からは、情報通信審議会電波利用環境委員会主査の藤原 修 先生（名古屋工業大学 名誉教授）をはじめ、45名の方々が参加されました。

電波環境協議会では、広報活動の一環として会員各位に CISPR の現状と動向を把握していただくため毎年 CISPR 報告会を開催しており、今年度は「バンコク会議」に参加された8名の方々に、総会および各小委員会の審議概要について講演いただきました。当協議会企画委員長の福地 一 先生（首都大学東京 教授）からの開会挨拶に続き、以下の報告が行われました。

1 CISPR バンコク会議 総会報告

藤原 修 先生（情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会 主査
名古屋工業大学 名誉教授）

2 A 小委員会の審議概要（無線妨害波測定および統計的手法について）

石上 忍 氏（独立行政法人情報通信研究機構 電磁波計測研究所電磁環境研究室
研究マネージャー）

3 B 小委員会の審議概要（工業、科学及び医療用高周波装置ならびに架空送電線、高電圧機器及び電気鉄道からの妨害について）

吉岡 康哉 氏（富士電機株式会社 技術開発本部 製品技術研究所 制御技術開発
センター スマートグリッド開発部 解析技術 Gr. 主査）

4 D 小委員会の審議概要（自動車及び内燃機関が駆動する装置の電気/電子装備品に関する電磁妨害について）

野島 昭彦 氏（トヨタ自動車株式会社 電子実験部 電子実験企画室 主幹）

5 F 小委員会の審議概要（家庭用電気機器及び照明装置からの妨害とイミュニティ）

平伴 喜光 氏（パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 ライティング
事業グループ 品質環境革新センター 参事）

6 H 小委員会の審議概要（無線業務保護のための妨害波許容値）

松本 泰 氏（独立行政法人情報通信研究機構 電磁波計測研究所 電磁環境研究室
室長）

7 I小委員会の審議概要 (ITE、マルチメディア機器及び受信機の EMC 規格について
その 1)

雨宮 不二雄 氏 (NTTアドバンステクノロジー株式会社 ネットワークシステム
事業本部 システム開発BU EMC チーム 主幹担当部長)

8 I小委員会の審議概要 (ITE、マルチメディア機器及び受信機の EMC 規格について
その 2 WG2, WG4 結果報告)

堀 和行 氏 (ソニー株式会社 品質センタープロダクトコンプライアンス室
コンプライアンス推進グループ 課長)



CISPR バンコク会議報告会の様子

なお、当協議会では毎年数件のテーマを設定し、関係機関・団体のご協力も得て調査研究活動を実施しています。得られた成果については、技術講演会を開催し会員の皆様にご報告するとともに、CISPR 国際会議の場において我が国から報告および提案活動を実施し、草案作成への寄与、規格への反映など国際的な貢献を行っています。

協議会では、今後も時宜を得た調査研究活動を展開し、CISPR 等に積極的に寄与してまいります。

本講演会のプレゼン資料、およびバンコク会議の概要についてまとめた「CISPR の現状と動向」は、当協議会ホームページの会員ページに掲載しますのでご参照ください。

「第8回 WINDS 利用実験実施協議会総会」、「WINDS 利用実験シンポジウム」を開催

WINDS 利用実験実施協議会は、総務省が公募した超高速インターネット衛星(WINDS)の利用実験に応募し、衛星アプリケーション実験推進会議において採択された 53 の実験プロジェクトの実施機関を会員として、平成 19 年 7 月に設立された任意団体であり、ARIB が事務局を務めています。

2 月 7 日、ARIB において第 8 回 WINDS 利用実験実施協議会総会と WINDS 利用実験シンポジウムが以下のとおり開催されました。

1 第 8 回 WINDS 利用実験実施協議会総会

西原会長の挨拶に続き、以下の報告がありました。

議題 1：平成 24 年度利用実験 実施状況報告(全体概要)

議題 2：平成 23 年度会計報告及び平成 24 年度予算の執行状況報告

2 WINDS 利用実験シンポジウム

西原会長の挨拶に続き、5 年間の利用実験実施協議会の活動の総括、今後に向けた展望と主な実施実験の概要について以下の講演が行われました。

講演 1：日本の宇宙政策の動向と今後に向けた視点

沼田 尚道氏（総務省 情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課長）

講演 2：JAXA 基本実験の成果と今後の展望

高野 潔 氏（宇宙航空開発機構 衛星利用推進センター 主幹開発員）

講演 3：NICT 基本実験の成果と今後の展望

高橋 卓 氏（情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所
研究マネージャ）

講演 4：利用実験の実施状況と成果

岩船 康則（一般社団法人 電波産業会 宇宙通信グループ 主任研究員）

講演 5：タイにおける WINDS 利用実験の実施結果

Supavadee Aramvith 氏（チュラロンコーン大学（タイ）助教授）

講演 6：タイにおける WIND 利用実験での学術ネットワークの活用

Chalernmpol Charnsripinyo 氏（国立電子コンピュータ技術研究所（タイ）
シニアスペシャリスト）

講演 7：インドネシアにおける WINDS 利用実験の実施結果

Utoro Sastrokusmo 氏（バンドン工科大学（インドネシア）元教授）

講演 8：フィリピンにおける WINDS 利用実験の実施結果

Roel Ocampo 氏（フィリピン大学 准教授）

講演 9：フィリピン、タイ、日本間の高精細映像によるマルチキャスト遠隔教育

西原 明法 氏（東京工業大学 教授）

講演 10：災害時を想定した WINDS 衛星による遠隔画像診断用医用画像の送受信

八木 一夫 氏（首都大東京 教授）

講演 11：超高速衛星回線用トランスポート層技術

石田 賢治 氏（広島市立大学大学院 教授）

講演 12：WINDS を利用した降雨減衰補償適用方法に関する実証実験

奥居 民生 氏（日本電気株式会社 エキスパートエンジニア）



「WINDS 利用実験シンポジウム」の様子と西原協議会会長

総務省からのお知らせ

電波資源の拡大に資する新たな研究開発課題の提案募集

【平成 25 年 2 月 5 日の総務省報道資料から】

総務省は「電波資源拡大のための研究開発」において、平成 26 年度から新たに実施する研究開発課題の選定に当たっての基礎資料として活用するため、本日から平成 25 年 3 月 8 日（金）までの間、次のとおり提案募集を行います。

1 背景・目的

昨今の無線技術の革新に伴い、電波を利用した様々なサービスやビジネスが普及してきており、今や電波利用システムは国民生活には欠かせないほど重要なものとなっています。さらに、少子高齢化や地域活性化等、我が国が抱えている様々な社会問題への解決策として、新たな電波利用システムの登場に期待が寄せられています。しかしながら、使い勝手の良い低い周波数帯は極めてちゅう密に利用されているため、新たな電波利用システムの導入が困難となっているのが現状です。

総務省では、新たな電波利用システムの導入に向けて、有限希少な電波の有効利用を推進するため、平成 17 年度から電波資源のより一層の拡大を可能とする技術の研究開発を大学、民間機関等に委託して「電波資源拡大のための研究開発」を実施しています。

今般、電波資源の拡大に資する新たな研究開発課題の提案を広く求め、平成 26 年度から新たに実施する研究開発案件の検討に当たっての基礎資料として活用することを目的として、提案募集を行います。

2 募集期間

平成 25 年 2 月 5 日（火）から同年 3 月 8 日（金）まで

3 提案要領

(1) 募集対象

今回提案を募集する研究開発課題は、次のア及びイを満たすものです。

ただし、既に実施している研究開発課題と重複するもの及び既に開発済みの技術で研究開発要素がないもの並びにこれらの組合せは対象外です。なお、既に実施の研究開発課題の詳細については、以下の電波利用ホームページ（電波資源拡大のための研究開発の実施）を参照してください。

< <http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/fees/purpose/kenkyu/index.htm> >

なお、今回の募集には、研究開発の委託先の募集は含まれません。

ア 電波の有効利用に資する技術に関する研究開発課題であること。

例えば、次のような技術が該当します。

(ア) 現在使用されている周波数帯域の圧縮など、電波の効率的な利用を図るための技術

(イ) 既存無線システムの下で、新たな無線システムの共同利用を可能とする技術

(ウ) 高マイクロ波帯、ミリ波帯等の高い周波数帯の技術的・経済的な利用を開拓し、これらの周波数帯への移行を促進する技術

イ おおむね 5 年以内に完了する研究開発課題であること。

(2) 提案方法について

提案資格に特に制限はありません。

提案される方は、[別紙 \(Word\)](#) の様式に必要事項を日本語にて記入の上、提出期限までに電子メール、ファクシミリ又は郵送により次の提出先まで提出してください。

(提出先)

〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎第 2 号館 10 階
総務省総合通信基盤局電波部電波政策課開発係

電話：03-5253-5876

FAX：03-5253-5940（送信後、電話にて着信確認してください）

電子メール：wireless-rd_atmark_ml.soumu.go.jp

（スパムメール防止のため、「_atmark_」を@に置換してください）

(提出期限)

平成 25 年 3 月 8 日 (金) 17 時必着 (郵送の場合は、同日付け必着)

4 提案の取扱い

- (1) 提案いただいた内容は、今後の電波資源拡大のための研究開発において、平成 26 年度から新たに実施する案件を検討するに当たっての基礎資料として活用させていただきます。この過程において、当方より提案内容に関して照会させていただくことがあります。
- (2) 提案いただいた研究開発課題のうち、優先的に取り組むべきとされたものについては、有識者による評価会等を経て、平成 26 年度からの実施に向けて総務省において所要額の予算要求等を行います。

5 その他

今回の御提案をもとに平成 26 年度から実施する研究開発については、平成 26 年 3 月頃を目途に委託先公募を実施する予定です。

編集後記

残念ながら、ニホンカワウソが乱獲や自然環境破壊等で 2012 年絶滅種になりました。世界的にも自然環境保護が問題になっていますが、外来生物・植物も自然環境保護の面で問題になっています。

南極では「南極地域の環境の保護に関する法」に基づき動物や植物の持ち込みが禁止されていますが、南極を訪れた 1,000 人を対象にポケットやズボン、袖口を掃除機で吸い、靴やかばんの中もチェックしたその結果、服や持ち物から 1 人当たり平均で 9.5 個の種子が見つかりました。南極には毎年、3 万 3,000 人以上の観光客や約 7,000 人の科学者が訪れており、特に南極半島は最も多くの旅行客が訪れる場所で、外来植物の「ホットスポット」とも言われて、意図せず持ち込まれた外来植物やその種子が、生態系のバランスを崩しかねないと懸念されています。

我が国でも、水生・陸生を問わず外来生物・植物が問題になっていますが、意図せず海外から持ち込まれたもの以外に、ペットの放棄等で植物・昆虫・動物等生態系のアンバランスが現実のものとなって居ます。この重大な脅威に現在は有効な手立てもなく外来種を見つけたら取り除くといった地道な活動しかないように思います。

今年 2 月 1 日に環境省がニホンウナギを絶滅危惧 1B 類 (近い将来絶滅の危険性が高い) に指定しました。生態になぞの多いウナギですが、これは稚魚などの乱獲や自然破壊が原因の一つと思われます。乱獲の防止を祈念します。

一度生態系のバランスが崩れてしまうととに戻すのは至難の技で、今ある自然を大事にしていきたいと思います。

(山田)



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp